

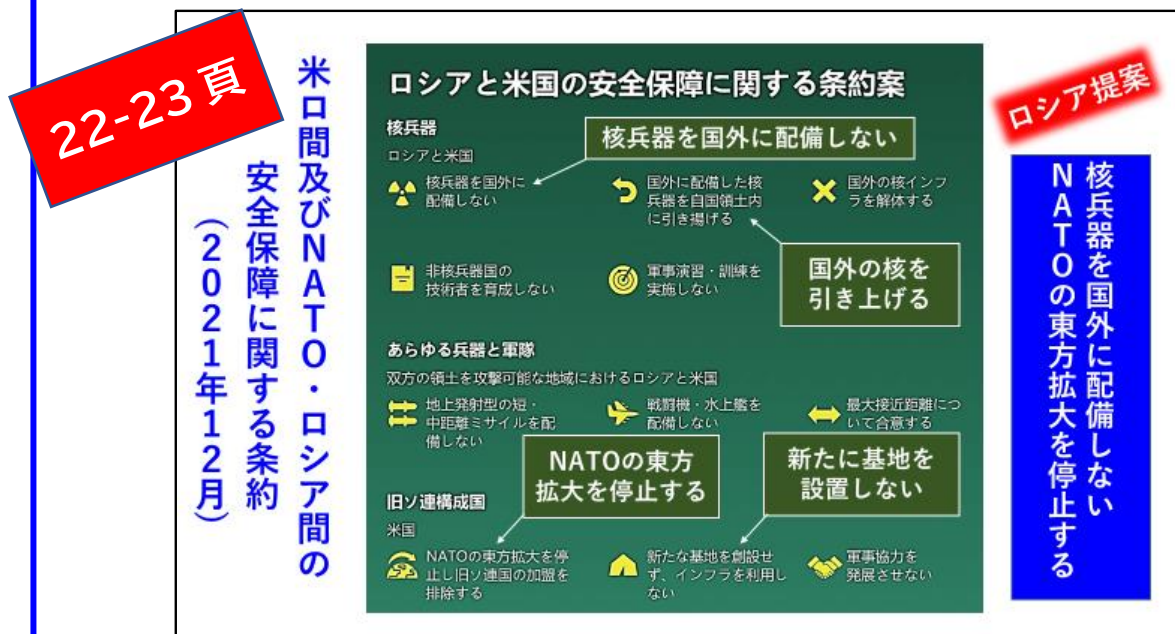
実は、ロシアは、アメリカを盟主とする NATO の東方拡大による国家安全保障上の懸念を払拭するために、2021年12月、NATO とアメリカに対して、「米ロ間及びNATO・ロシア間の安全保障に関する条約」を提案していました。

この条約は、「NATO の東方拡大を停止すること」を求めているだけでなく、核兵器廃絶には大きく距離があるにしても、核対決の脅威を小さくする点でもかなり大胆な要求を掲げています。

まず、「核兵器を国外に配備しない」ことを求めています。それは、直接的には、ヨーロッパ圏の NATO 加盟国に核兵器が配備されている現実の脅威を念頭に置いたものでしょう。それと軌を一にするものとして、「国外配備の核兵器を引き上げ、国外の核インフラを解体する」という条項があります。

また、「非核兵器国の技術者を養成しない」や、「核兵器がらみの軍事演習や訓練を実施しない」ということも要求されています。

しかし、この条約の提案はアメリカ、NATO によって拒否されました。



ロシアはしばしばクマに譬えられますが、私は、クマの目や心臓を突ついたりしたらクマが暴れることを承知の上で、あるいは、クマを暴れさせてハトハトになるまで疲弊させることを目的としてクマの目や心臓を突つき続けたアメリカは、この事態に最も重大な責任を負うべき立場にあると確信しています。

ウクライナへの NATO 拡大とか、傀儡政権を作って極右勢力を正規軍に組み入れてウクライナ東部のドンバス地域のロシア語話者に対して民族浄化的軍事弾圧を加えたりしなければ、こんなことは決して起こらなかったのです。

クマを暴れさせる目的で突つき回しておいて、暴れたクマに「ルール違反！」とレッドカードを突きつけ、暴れさせた原因者の責任を一切問わずに、暴れたクマの責任を一方向的に問うばかりか、クマをさらに突つき回すためにさらに槍や礮(つづて)を供与し、クマを鎮静化させるところか、さらにクマが疲弊し尽くすまで暴れさせようとするのはいかがなものでしょう。

アメリカのオバマ政権がウクライナに傀儡政権をつくるために企てたユーロ・マイダン・クーデター、新傀儡政権のもとでのウクライナ NATO 化の推進、そして、極右民族主義者の民兵集団を国軍に編入して、同じウクライナ人でありながらロシア語を話すという理由で軍事弾圧を加えた親ネオナチ・ウクライナ政権—これらの実態をしっかりと見据えることなしに、ウクライナ戦争がなぜ起きたのかを正確に理解することはできないでしょう。